

平成 28 年度 第 2 回よっちゃんばれ放談会 要旨

日 時	平成 29 年 1 月 31 日 (火) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	中道公民館 会議室
参 加 者	公募 (6 名) 新規就農者を指導する農業者 (4 名)
市出席者	市長、副市長、産業部長、産業総室長、農林振興室長、農政課長、農業委員会事務局長、地域振興課長、協働推進課長
次 第	1 開会 2 市長あいさつ 3 意見交換 4 まとめ 5 閉会
意見交換	
農政課長	<p>それでは、意見交換会に入りたいと思います。</p> <p>最初に、私からみなさんの紹介をさせていただき、その後に新規就農者の方に甲府に就農しようと思った理由やきっかけについて、伺いたいと思います。</p> <p>それでは、参加者 A さんからお願いします。</p>
参加者 A	<p>私は飲食店を経営しており、お客様に安全安心な地元の食材を提供したいと思ったことや店の原価率を下げるといった理由で農業に参入しました。しかし、農業に関しては、全くの素人でしたので、戸惑うことも多かったのですが、様々な方から、アドバイスをいただく中で現在に至っております。</p>
農政課長	<p>続きまして、参加者 B さんお願いします。</p>
参加者 B	<p>さきほど、A さんが話したのと同じ理由です</p>
農政課長	<p>続きまして、参加者 C さんお願いします。</p>
参加者 C	<p>私は、甲府出身で、近所にブドウ畑がある中で育ちましたが、これまで宝飾関係の会社に勤務しており、農業とは無縁でした。しかし、以前から自分の手で経営から販売まで出来る仕事に興味があり、その中で農業、とりわけブドウ栽培のクリエイティブなところに魅力を感じたことやブドウ畑からの素晴らしい景観に興味を持ったことから就農しました。</p>

農政課長	続きますして、参加者Dさんお願いします。
参加者D	私は、ナスを中心にした農業経営を志し、山梨県に相談したところ、県の担当者から、甲府市は行政や農業者の方が、積極的に新規就農者を受け入れる体制が整っているという説明を受けたことから、甲府市での就農を決意しました。
農政課長	続きますして、参加者Eさんお願いします。
参加者E	私が、甲府市で就農しようと思ったきっかけは、平成26年2月の大雪が契機となりました。当時私は、大学4年生であり、いつかは農業をやりたいと思っていたのですが、雪害ボランティアに参加し、農家の方々とも交流できたことや学生に就農してもらうための営農活動を行っており、甲府市で就農することによって、この活動が加速するのではないかと思い、就農を決意しました。
農政課長	続きますして、参加者Fさんお願いします。
参加者F	私は、現在東京の大学に通っており、就農はしていませんが、週末は甲府で農業体験に参加させていただいております。甲府は東京から近距離であり、1年を通して、様々な農産物が採れることから、甲府市での就農を希望しています。
農政課長	ありがとうございました。続きますして、新規就農者を指導するベテラン農家の方々から、甲府の農業の魅力について、お話しいただきたいと思えます。まずは、参加者Gさんからお願いします。
参加者G	私は、笛吹市、甲斐市、韮崎市などでブドウを栽培していますが、甲府の自宅を拠点にして、短時間で市外の畑に行くことができます。また、甲府は南北に細長い地形であることから、旬の時期をずらした農作物の栽培が可能であることや、県外の方々は、甲府といえばワインといったイメージがあるので、うまくPRできればいいのではないかと考えています。
農政課長	続きますして、参加者Hさんお願いします。
参加者H	私は、野菜を栽培しておりますが、甲府の魅力は水と、寒暖差があるため、野菜の栽培には適した環境であると思えます。また、野菜の美味しい食べ方を伝えるため、子ども達に食育活動を行っており、活動が広まればと思っております。

農政課長	続きます、参加者Iさんお願いします。
参加者I	Hさんが言われたように、甲府は日照時間や水など、農業に適した環境が整っていることは大きな魅力ですが、逆に言うと何でも栽培できるため、農産物をブランド化していくのが難しいかもしれません。
農政課長	続きます、参加者Jさんお願いします。
参加者J	農業経営を行っていくには、伴侶がいなくてうまくいかないのかなと思いますので、是非とも伴侶を見つけていただき、就農者として定着していただきたいと思います。
農政課長	みなさんからご意見をいただきましたが、その中でCさんは景観に興味があるといったご意見をいただきましたが、もう少し詳しくお話いただけますか。
参加者C	私は就農するにあたって、英和大学北側の山の斜面にあるブドウ畑に連れて行ってもらった時に、一面のブドウ畑から見える甲府盆地や富士山の景色に感銘を受けました。私は甲府出身で、近所にブドウ畑がある環境で育ちましたが、山の斜面にあるブドウ畑に行ったのは初めてであり、農業だけではなく、この素晴らしい景色を多くの人にも見ていただきたいとの思いから、農業と景色を堪能できる取組として、オーナー制を始めました。
農政課長	オーナー制というのは、どのような契約ですか。
参加者C	1シーズンの契約であり、畑に区画を設けております。
農政課長	ありがとうございました。それでは、これまでの話の中で、樋口市長、何かご意見ありますでしょうか。
市長	私も甲府生まれ、甲府育ちであります。農業に関わっている方々の思いが、他の市民にも伝わらなければならないと感じました。 県外出身の方で、甲府に赴任された方々のお話を聞くと、果物が美味しいのは知っていたが、野菜や水が美味しいことに感動したというお話をよく耳にします。そういった意味では、県外出身の方のほうが甲府の魅力を感じており、それぞれのルートで、情報発信していただいているのかなと思います。 これからのリニア新時代に向けて、今日ご参加いただいている皆さんと甲府の魅力を最大限生かす仕組みづくりや、伴侶・仲間づくりなど様々な面から意見交換していきたいと思います。また、今後も、甲府の証に続く、

	<p>農産物のブランド化や開府 500 年に向けた甲府産ワインの開発、商品化などを行っていきたいと思います。</p>
農政課長	<p>ありがとうございました。次に交流・定住人口について、Eさんご意見をいただけますか。</p>
参加者E	<p>私は、大学 4 年生の時から「農継者」という組織を立ち上げ、学生を中心に営農活動を行っています。私の通っていた大学の学科は、4年のうち 1 週間しか農業体験を行う機会がなく、カリキュラムが固定されているため、そこから生まれる気づきも少ないのですが、こちらで農業体験を行い、農家の方と交流することによって、就農人口が増えればと思っています。</p> <p>また、農業体験を行った方が、結果的に就農しなくても、その方が、就農した方を支援する仲間になればという思いで活動しています。</p>
農政課長	<p>具体的に、どのような活動を行っていますか。</p>
参加者E	<p>週末、学生たちに甲府に来てもらい、私の家を拠点としながら、農家さんのところで農業体験をしていただいています。また、現在はまだ計画の段階ですが、東京の大学に出向いて説明会を開催したり、中道地区の農業についてホームページを作成していきたいと考えています。</p>
農政課長	<p>SNSなども利用されていますか。</p>
参加者E	<p>はい。当初は、平成 26 年の雪害ボランティアとして来ていただける方が多かったのですが、最近では就農を希望する方が多く来ていただいております。</p>
農政課長	<p>Fさんもこの活動に参加されていますが、何かご意見ありますか。</p>
参加者F	<p>私は実家が農家ではなく、大学に入学して初めて、農業を勉強しましたが、やはり大学の 1 週間の農業体験だけでは不十分であると思います。</p> <p>Eさんの活動に参加してみて、Eさんは私と同世代の方なので、非常に心強いです。また、ここで食べたスモモが非常に美味しく、スモモは酸っぱいというイメージが一新されたことも貴重な体験でした。</p>
農政課長	<p>甲府市としても交流人口を増やして、それが就農者の増加に繋がるよう取り組んでいますが、交流人口を増やすにはどうしたらよいでしょうか。</p>
参加者A	<p>交流・定住という意味では、若者よりも、家庭を持っている方のほうが、仕事に対するやる気があると思いますので、農業に関しても、このような</p>

	<p>方々に、甲府に来て就農していただくと良いと思います。私たちも行政に頼ってばかりではいけないと思いますが、これらの方々を支援する環境整備が必要だと思います。</p>
参加者 E	<p>私は、2年前に中道地区に移住しましたが、中道地区は農家同士の連携が強く、農作物の品質も良く、気軽に農業相談も出来るのですが、住める家がないという問題があります。これは、私たち個人の力では解決できませんので、就農を希望する方に対して、地区の中に借り住まいができる拠点があれば、移住・定住が進むと思います。</p>
参加者 J	<p>耕作放棄地が増える中で、就農希望者の方にまとまった農地を確保し、提供することが大切だと思います。</p>
市長	<p>先ほどもお話ししましたが、リニア新時代に向けて、首都圏から数十分で来ることができる環境を最大限に生かし、しっかりとしたビジョンを持ちながら施策に取り組んでいきたいと思います。また、甲府の南北に長い地形を生かした特色ある取組や、Eさんからご意見のありました、住む場所につきましても、空き家の活用やシェアハウスをリノベーションによって創ることにより、シェアハウスを通じた仲間作りや交流が生まれることから、行政としても、農業の活性化や新規就農者の増加に繋げるために取り組んでいきたいと思います。</p>
農政課長	<p>皆さんありがとうございました。それでは、ここで休憩とりたいと思います。</p>
農政課長	<p>それでは、意見交換会を再開したいと思います。新規就農者の育成支援について、ご意見をいただきたいと思います。</p>
参加者 I	<p>就農を決意した方は、会社に勤務するのとは違い、勤務条件を考慮しないでこの世界に飛び込んだ方が多いと思います。確かに農業は、勤務時間や収入など計算できない面が多いのですが、自分で開拓し、チャレンジ精神を持ち続けることで、それが周囲に伝播し、SNSでは得られない仲間づくりに繋がると思います。</p>
参加者 G	<p>私たちは、一般の人を対象としたブドウの傘かけ体験を行っており、昼食には山梨県産の食材やワインを提供しています。昨年は約 50 人の参加があり、帰る時にはお土産としてワインを買ってもらうなど、一定の成果を挙げていますが、ここで言いたいのは、甲府市職員が営農隊を組織して、我々農業者とともに農作業に取り組むことで、甲府市の農業の実態や課題などを肌で感じるができるため、施策に反映させることができると思</p>

	<p>います。行政に対して、金銭面の援助だけではなく、我々農業者の立場を理解していただくこと大切だと思います。私の知る限り、この取組は全国でも例がないことだと思いますので、考えてみてはいかがでしょうか。</p>
参加者E	<p>新規就農者への支援の面からお話させていただきます。現在、農地銀行から空き家を活用した住居の提供について話をいただいております。</p>
参加者B	<p>農業の生産技術を学ぶためには、農業大学に通ったり、地域の農家さんの所に勉強に行ったりしますが、新規就農者はどうしても、農地や農機具、作業場などにお金がかかるため、現状は、お金に余裕がある人か、親族が農業を行っている人しか就農することができないので、これらの問題を、行政の力を合わせて解決できないかなと思います。</p>
市長	<p>皆さんから、様々なご意見をいただきましたが、いただいたご意見は、今後、農業振興計画の策定において整理する中で、取り入れていきたいと思えます。Gさんから話があった、市職員の営農につきましても、本市職員の中に野菜ソムリエの資格を取得して、野菜の食べ方について、市民や観光客の皆さんに周知するなどの活動を行っている職員もいますが、行政として、今後どのように関わっていけるのか、調査研究していきたいと思えます。</p>
農政課長	<p>それでは次に、新規就農者に期待することやアドバイスについて、ご意見を伺いたしたいと思います。</p>
参加者H	<p>はじめから売り物になるような農作物ができる訳ではなく、思いどおりにいかないことが多いと思えますが、そんな時には、地域の人力を借りたり、仲間づくりの輪に入ったりすることが大切だと思います。農業は自然を相手にしているため、本来楽しいものだと思いますので、あまり気張らず、肩肘を張らずに頑張っていたいただきたいと思います。</p>
参加者J	<p>冬場は、どうしても野菜が採れないのですが、飲食店からしてみれば地元の野菜を使ったものを提供したいという思いがあります。皆さんは若く、頭が柔らかいので、ビニールハウス栽培でも良いので、この時期にどのようにしたら野菜が採れるのかを考えていただきたいと思います。</p>
参加者G	<p>農業者と言うのは、農作物を作れない人に作物を供給するという使命がありますので、農業者として何を指すのか、農業を通して、どのような生き方をするのかをはっきりさせた方がいいと思えます。</p>
参加者C	<p>私はビジネスとして農業を始めました。私は、自分たちが格好良い農家</p>

<p>農政課長</p> <p>参加者A</p> <p>参加者I</p> <p>参加者J</p> <p>農政課長</p>	<p>にならないと、次世代に繋がらないなと思います。幸い、こちらにいらっしやるような格好良い農家の皆さんと知り合うことが出来ましたが、このような方々と出会う機会が増えればと思います。</p> <p>それでは次に、新たなビジネスモデルや6次産業化について、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>地元産のはねだし野菜を、飲食店向けに加工する取組ができればと思います。また、甲府産の野菜を県外で売るといった取組も行っていきたいと思っています。</p> <p>甲府の農産物を県外、国外で売ることも大切ですが、一番は地域に提供することです。これにより一つの経済圏が形成されるとともに、災害時などにも食材の提供が可能となりますので、スローフードの意識を醸成する取組を行っていただきたい。先ほどEさんが話されたように、農業体験をされた方が宿泊できるような施策についても、農業部門だけではなく、市の施策として検討していただきたいと思います。</p> <p>地元の食材を、地元の人達の手で作る取組が必要だと思います。</p> <p>貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。予定していた時間となりましたので、意見交換会を終了させていただきます。</p>
<p>まとめ</p>	
<p>市長</p>	<p>本日は、長時間にわたり、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>6次産業化という言葉は、全国的に言われていますが、山梨県は農作物の宝庫であり、新鮮な食材を食べることが出来る環境にいることは、とても幸せなことだと思います。現在、農作業体験が観光メニューになっている所もあり、生業として成り立たせていくために、皆さんと連携しながら、しっかり取り組んでいかなければならないと思います。</p> <p>また、これからのリニア新時代に向けて、甲府市は大きなポテンシャルを秘めていますので、皆さんからいただいたご意見は、今後、農業振興計画を策定する中で整理し、施策に反映させていきたいと思っています。</p> <p>また、仲間作りについても、婚活、就活、妊活等、関係団体と連携しながら、取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>最後に、皆様から貴重なご意見をいただきましたことに重ねて御礼申し上げます。私の挨拶にかえさせていただきます。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>

